

理想バイアル瓶

◎ご使用について

理想バイアル瓶は主に病院注射薬製剤の滅菌を目的とした容器です。従って 121℃前後のスチーム滅菌に耐えて、アルカリ溶出量は日薬試験 0.14ml（透明瓶）0.15ml（褐色瓶）です。

◎原則として滅菌できないもの

一般注射薬以外の例えばアルコールやアセトンの様な有機溶剤。

（ただし容器としての使用は可能）

◎オートクレーブ【滅菌器】について

原則として薬剤用をご使用ください。ただし中材用でも、薬剤用に完全コントロールが滅菌器は差し支えありません。

◎使用上のお願い

下記の様な事をご配慮くだされば安全でまた容器も長くご使用いただけます。

○急がない場合（薬室用一般オートクレーブの場合）

充分時間をかけて、蒸気を排出し静かにして冷えた後に取り出してください。

○急ぐ場合（能率を上げる）

- ① 滅菌後、オートクレーブから蒸気を細く（少なく）放出してください。（30分ぐらい時間をかける）
- ② 瓶の中の液が 90℃（オートクレーブ内は、これより低くなる）以下になってからオートクレーブの扉を静かに開けてください。

（熱が高いとオートクレーブの中で傷のついていた瓶が破損したり、軟化しているキャップが飛ぶことがあります）
- ③ そのまま放置するか、ファン（扇風機）で遠くから弱風で徐々に送風冷却をします。
- ④ 手で触れて取り出せるくらい冷却して取り出すなど、安全のためのご配慮ください。

★ご注意事項

- ◇滅菌後の蒸気を放出後、早く開扉して中をのぞきこんだり取り出すこと。
 - ◇オートクレーブの余裕が無く、狭い器内へ多くの容器を入れた無理な作業をしないこと。
 - ◇慣れによる油断が事故につながりかねません
 - ◇洗滌中なるべく瓶同士をぶつけないようお取扱いにご配慮ください。
 - ◇洗剤にキャップを漬けないでください。やむを得ない場合は短時間にしてください。
 - ◇洗剤そのものが落ちにくいので、水洗を充分にしてください。
- ※中材用（医療器具滅菌）オートクレーブでの滅菌は、原則として不可です。専門知識の無い方に操作を行わせる場合は、安全のため使用上の教育をお願い申し上げます。

滅菌温度の変化について

- 近年滅菌温度が高くなっている傾向が見られます。
- それは、高性能なオートクレーブが出回ってきたことにも起因しているようです。
- 従来は121℃前後までの滅菌であったものが、現在では130℃以上にも達する加圧滅菌となるところが見られます。
- この対策として当社では130℃前後で使用可能なキャップを採用しております。
- また、パッキンはシリコン製で耐熱余裕が充分あります。（180℃）

製造元 株式会社ギヤマン